

国際協カイニシアティブ



大学の知を活用したESD国際協カモデルの形成



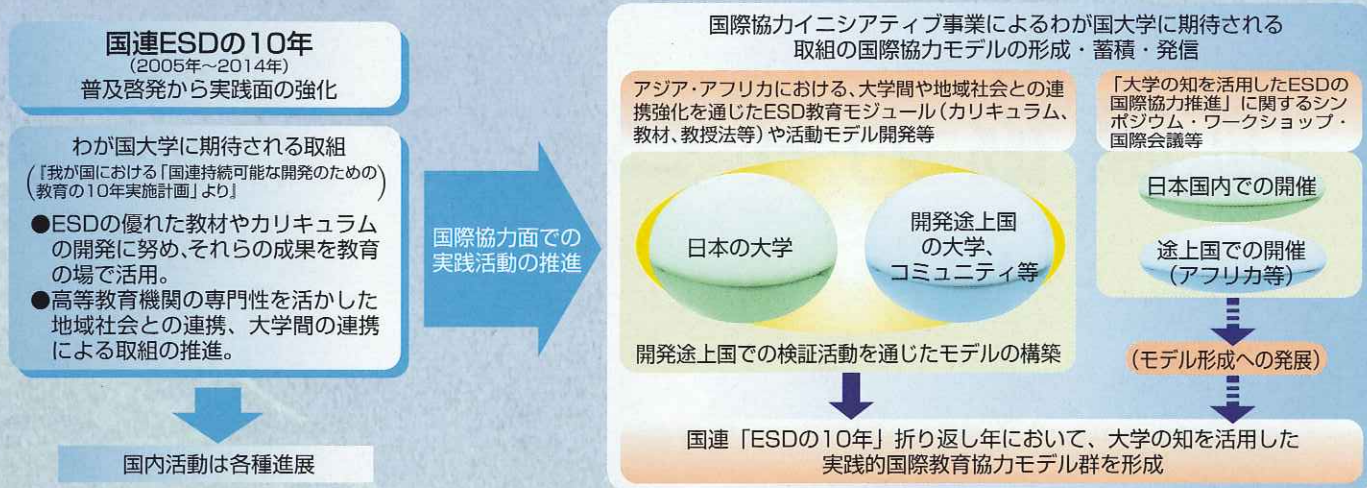
文部科学省



大学の知を 活用したESD 国際協力実践 モデルの形成 促進

これまで、国際社会において、国連「持続可能な発展のための教育（ESD）」の必要性、基本的概念及び目的について議論が重ねられ、その将来世代への重要性が認識されてきています。また、国連「持続可能な発展のための教育の10年（DESD）」が中間年を迎えることもあり、ESDには理論面の整備に加えて実践面の一層の強化が求められています。

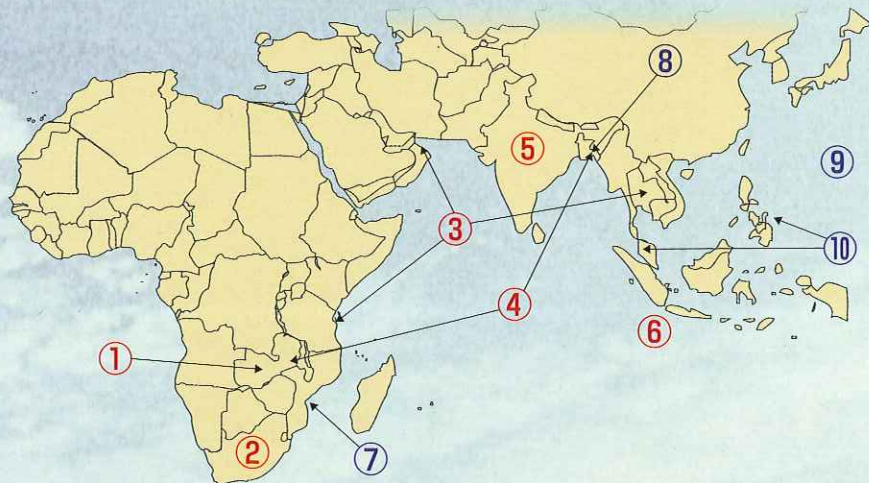
このような状況の中、文部科学省では国際協カイニシアティブ事業により、2008年度より、わが国大学が有する知見を活用し、海外の大学等と連携しつつ、ESDに携わる多様な関係者が現地において活用可能な実践的な教材や活動モデルの開発等に取り組んでいます。



国際協カイニシアティブ事業（ESD関連）のイメージ図

2008年度 実施案件

2008年度は、主な対象地域をアジアおよびアフリカと設定し、日本の10の大学が、開発途上国の大学等と協働でESD国際協力モデルの形成に取り組んでいます。今年度の特徴として、日本のESDに関する地域拠点（RCE）全6地域中、4地域（仙台広域圏、横浜、兵庫、岡山）の中核大学が本事業によりESDをテーマとして国際協力の取組を開始したこと、また海外のRCE（セブ、ペナン、ジョグジャカルタ、マプト）とも連携を図っていることがあげられます。



教育モジュールや活動モデルの開発等

- ①北海道教育大学、【ザンビア】モファット教育大学
- ②国際基督教大学、【南アフリカ】ケープタウン大学
- ③三重大学、【タンザニア】ムヒンビリ健康科学大学、【タイ】コンケン大学、【UAE】シャルジャ大学
- ④岡山大学、【バングラデシュ】DAM (NGO)、【ザンビア】ザンビア大学
- ⑤東京大学、【インド】インド工科大学
- ⑥筑波大学、【インドネシア】ボゴール農科大学

大学の知を活用したESD国際協力推進に関する国際シンポジウム等

- ⑦愛媛大学、【モザンビーク】エドゥアルド・モンドレーン大学、ルリロ大学
- ⑧神戸大学、【バングラデシュ】
- ⑨宮城教育大学、【アジア・大洋州】
- ⑩横浜国立大学、【マレーシア】マレーシア科学大学、【フィリピン】フィリピン大学

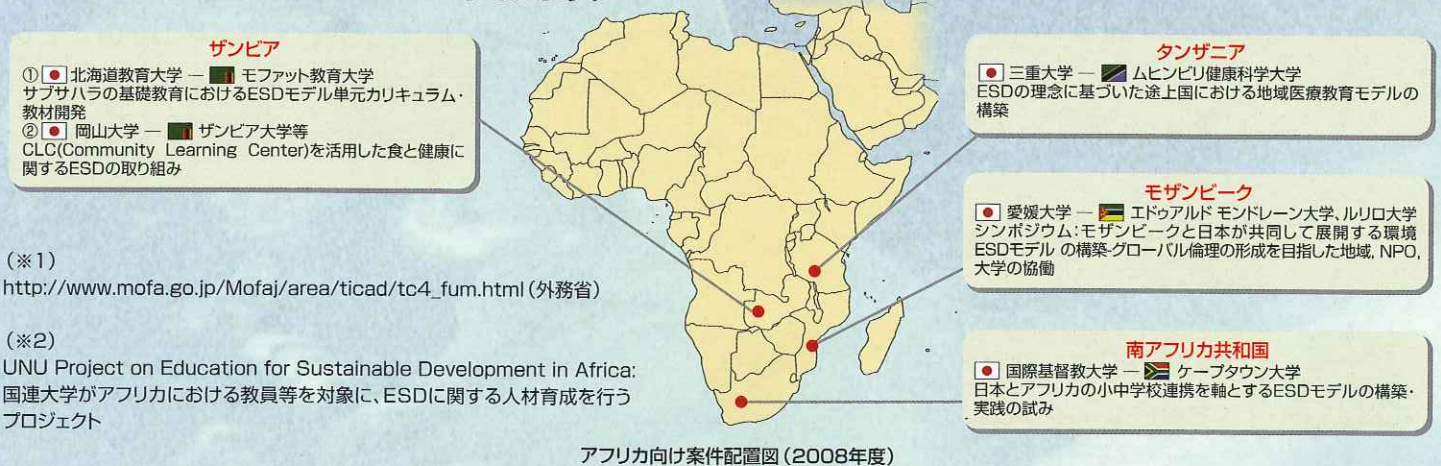
（詳細情報）

<http://www.scp.mext.go.jp/esd/index.html>
（文部科学省 国際協カイニシアティブホームページ）

アフリカ 向け案件

2008年に開催された第4回アフリカ開発会議（TICADIV）およびG8北海道洞爺湖サミットを通じて、アフリカ重視の姿勢が改めて強調されました。また、ESDについては、TICADIVの横浜宣言において、国際社会が取り組むべき課題として明記されるとともに、この成果はG8サミットの首脳宣言において重要な貢献であると歓迎されています。

このようなアフリカ重視の潮流を踏まえ、本事業でもアフリカ向け案件を重視しています。これら案件はTICADIVのフォローアップメカニズム（※1）の対象にもなり、また、本事業の成果である活動モデル等を実践的に活用する方策の一つとして、国連大学が行うアフリカ向けESD事業（※2）とも連携を図る予定としています。



(※1)
http://www.mofa.go.jp/Mofaj/area/ticad/tc4_fum.html (外務省)

(※2)
UNU Project on Education for Sustainable Development in Africa:
国連大学がアフリカにおける教員等を対象に、ESDに関する人材育成を行うプロジェクト

事例紹介

1. 日本とアフリカの小中学校連携を軸とするESDモデルの構築・実践の試み (国際基督教大学)

南アフリカのケープタウン大学と連携し、日本と南アフリカの小中学校教員を交えた共同研究ネットワークを形成し、両国の児童・生徒が「持続可能な開発」について共に考える教育モジュール(カリキュラム、教材、教授法等)を開発します。

日本側では、三鷹市の教育委員会や小中学校の参加を得て、ケープタウンの小学校4-6年生とのテレビ会議形式の授業を通じて、国際協力活動に基づく新たなESD教育の可能性を実践的に検証していきます。また、本活動では、国連大学が実施中の日本とアフリカの大学ネットワークによるESD指導人材育成事業との連携による相乗効果も図っています。

2. 公民館を活用した食と健康に関するESDの取り組み (岡山大学)

開発途上国において、日本の公民館に相当するCLC (Community Learning Center) を活用し、「ESDと食・栄養・健康」という観点で地域住民にESDについて学ぶ機会を提供する教育モデルを開発します。

アジアの経験をアフリカに伝えることも念頭におき、バングラデシュとザンビアを活動対象地としています。バングラデシュでは現地NGOのDAM (Dhaka Ashania Mission)、またザンビアではザンビア大学と連携しつつ、現地のCLCで活用可能な教材 (ESD指導マニュアル、マルチメディア教材等) を開発し、その効果を検証することを通じ、教育モデル形成に取り組みます。



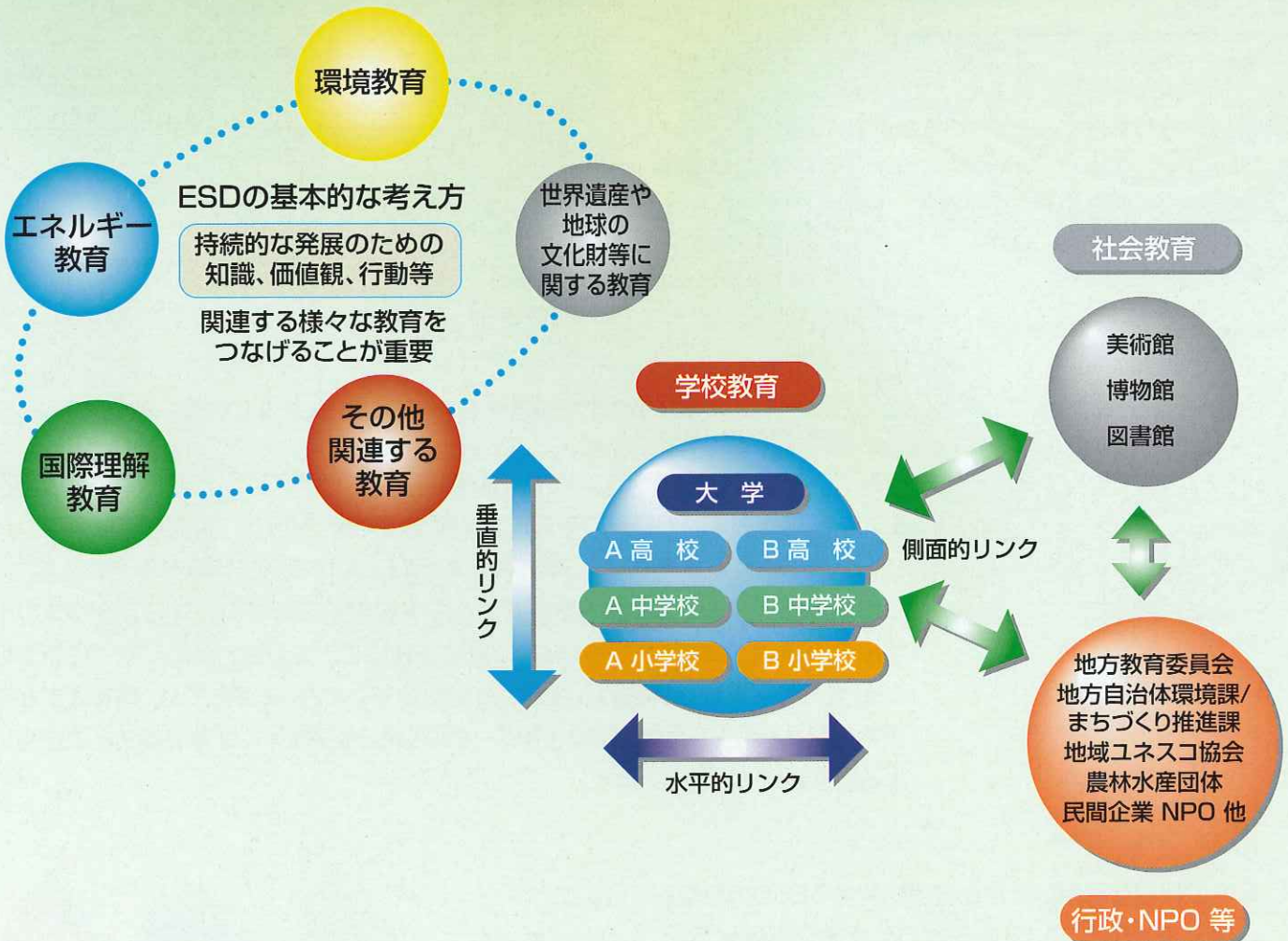
持続可能な 発展のための 教育(ESD) とは

ESDは、言わば、持続可能な社会づくりのための担い手づくりです。
ESDの実施には、特に次の観点が必要です。

- ① 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ② 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと

そのため、環境教育、国際理解教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別の分野にとどまらず、環境、経済、社会の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要です。

2002年の国連総会において、わが国の提案により、2005年から2014年までの10年間を国連「持続可能な発展のための教育(ESD)の10年」とすることが決議され、ユネスコがその推進機関に指名されています。わが国では日本ユネスコ国内委員会や関係省庁が協力し、様々な関係者と連携してESDを推進しています。



今後とも大学の知を活用したESDの国際協力モデルの形成を推進していく予定としていますので、これからの活動にご期待ください。

問合せ先：文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室

TEL：03-5253-4111 (内線2606) FAX：03-6734-3669

URL：http://www.scp.mext.go.jp/

E-mail：kokkok@mext.go.jp